

令和3年度第3回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第3回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見を頂きました。

1 日程及び場所

令和3年12月24日（金）

Web会議形式にて開催

2 議題

- （1）近畿中国局管内の木材需給動向について
- （2）国有林材供給調整の必要性について
- （3）その他

3 議事概要

《検討結果》

輸入木材は、引き続き旺盛な海外需要に加え、燃料高やコンテナ不足による海上運賃の上昇等により不足した状況が続いている。

国産丸太は、輸入材の代替需要による市場価格の値上がりを受けた積極的な出材が続き、これに伴い、丸太価格の過熱が解消する傾向にある一方で、特にB・C材については地域によって未だ不足している状況にあり、先行きは依然として不透明である。

以上のことから、地域での樹種や用途等の需要の動向、民有林材の供給状況、木材の輸出入状況等について情報収集を行いながら、引き続き、国有林からの素材並びに立木の安定供給・販売に努める。

〈主な情報、意見等について〉

○木材の需給動向について

- ・和歌山県内では、ウッドショック以降積極的に素材の増産を働きかけているが、従事する作業員は限られているため、急激に増加させることは難しい状況にある。
- ・岡山県内では、柱取りヒノキ丸太が7月の5万円台をピークに10月から徐々に値下がり始め現在3万円を維持。その後、直近の12月の市で32,000円まで値戻りした。この辺りで価格が維持されれば出材意欲につながってくる。また、ヒノキB・C材は十分にある一方で、スギ材に関しては価格が安いいため採算が取れず極端に少ない状態。
- ・和歌山県内の原木市場では、10月の平均価格は、昨年と同月と比較すると、スギが約2,600円高、ヒノキが8,500円高。11月では、スギが1,200円高。ヒノキが7,600円高と下がり傾向。
- ・兵庫県内では、ヒノキが供給過多となって、価格が安くなっている。製材所の能力よりも多く供給され、原木市場には整木されていない極が目立つ状況。一方スギについては、品薄から2ヶ月前から少しずつ価格が上昇し、今現在は一時期より3,000円高。さらに直近では降雪期を前にして5,000円ほど高いものも出てきた。合板用原木も入手が難しい状況になっている。
- ・岡山県内では、市場の集荷量は多く、例年2,500m³程度の市でも今年は5,000m³を超える市売りを3回ほど開催している。現在、製材所のキャパを超えるヒノキが出荷されて供給過多の状態が続いている。また、最近では広葉樹材、特にナラ材の引き合いが強い。針葉樹の森林整備施業に重点を置かれ、放置されていた広葉樹が大径化してきたことで、家具あるいはフローリングに利用されるようになってきた。
- ・奈良県内では、急騰したスギ・ヒノキの並材価格が8月以降はばらつきが出始め、10月に入って若干下落傾向にある。9月以降は作業も順調に進み、ヒノキの出材が大幅に増加をしている。また、ヒノキ高齢級の大径材40cm上の良材は出材量が少なく高値も見受けられる。一方で、9月に起きたヘリコプター事故の影響で、10月から12月の秋の駆け込み時期にヘリコプターが使えず、高齢級の大径材や長尺材の出材量が減少した。
- ・奈良県内は慢性的な路網不足と担い手不足によって、材価が上がっても大幅な増産には繋がらず、結果材積が2%伸びただけというのが実情。
- ・大阪府内の製品市場は、11月と特別市は前年と比較して、売上が39%の増加。9カ月連続前年同月増となった。一方、販売量については、品薄状態がある程度解消したことに加え、住宅設備機器等の欠品等の要因から19%減となり、5カ月連続前年同月減となった。
- ・和歌山県内の製材工場は、原木不足の中ではあるが通常取引分は対応できている。しかし、新規注文には慎重な姿勢を取るところが多い。製品価格も9月までは上昇傾向だったが、それ以降は落ち着いており、部材によっては少し下がっている。今まで羽柄材や管柱は仕入れができなかったが、ここへ来てスギ、ヒノキ4寸の管柱が何本か仕入できるようになった。
- ・岡山県内の製品工場では、県外の大手が1ヶ月ほど製品の購買を控えている様子。
- ・和歌山県内のプレカット工場では、注文が少し落ち着いてきている状況。一方、合板の入荷がしづらいため、一部工場では稼働率が落ちている。

- ・和歌山県内では、合板用原木の供給量は少し増えているものの依然足りない状況。合板用原木を合板工場へ持ち込み、合板製造を依頼するプレカット工場もある。
- ・合板不足の原因は、国産材不足に加え、中国向けの原木輸出が影響している。

- ・住宅建築では、資材価格の値上がりにより、建築を後に延ばすとか、失注すると言われている工務店も出てきた。

- ・和歌山県内では、バイオマス用材と競合するC材の需要が伸びてきたためバイオマス用材の集荷に苦戦しており、一部九州からも集荷している。
- ・兵庫県内のバイオマスの燃料は、原料の供給不足により安定的な稼働ができない発電所が出てきた。

○今後の見通しについて

- ・今後の動向は、製品価格の高止まりがどのような形で落ち着いていくのか、市況の下落が不安である。
- ・世界的にカーボンニュートラルの動きもあることから、原木価格は元の水準には戻らないのではないかという声もある。
- ・循環型林業を進める上では、原木はある程度の価格が維持される必要がある。
- ・今後についても、ヒノキの市況動向が出材状況に影響を及ぼすと思われる。
- ・年初はヒノキ材が主体で春先にかけてスギ材の出材が増加してくると予想。

○その他

- ・輸入材が入らなくなった理由について、為替の円のレートが下がったこと、日本の購買力が下降したことも背景にある模様。また、2×4は原木の歩留まりが良く、高値で買ってもらえる。
- ・輸出国は、人口が減っている日本よりも、人口増加が見込まれる中東やアフリカの方がマーケットとしては魅力的と思われる。
- ・コンテナ不足の状況は、年明けまで続くが、場合によっては来年前半も続くのではないかとと思われる。